

# 平成 29 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 WE21 ジャパンこうほく

## 1 事業の成果

弊法人にとって 2017年度は みんなで新しいことに取り組み、地域の団体と連携し、国内外の民際協力事業地の人たちと交流できた一年でした。

活動の拠点でもある2つのチャリティショップ WE ショップでは ボランティアに参加したメンバーの活動の幅がひろがり、今後の活動につながる一年でした。

また、2013年度に初めて神奈川県指定 NPO 法人の申請をおこない5年間の認定をうけた最終年度でもあり、5カ年の事業と活動を振り返る機会ともなり 活動が着実にすすんでいることを点検することができました。

リユースリサイクル事業や民際協力事業に普通の市民が集い協力して活動し地域を そして社会を 住みよくしていこうとする活動が地域の共感を得て地域に根付いてきていると感じた一年でもありました。

## 2 事業内容 (特定非営利活動に係る事業)

### I. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

#### 1) ショップ事業

##### (1) 大倉山店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 277 日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町60-1
- ・従事者人員 ショップマネージャー 3人 ボランティアスタッフ 28人 (延べ807人)
- ・受益対象者 市民 主に港北区南部・鶴見区
- ・寄付件数 2,741 件
- ・支出額 8,033,094 円

##### (2) 日吉店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 282 日
- ・場 所 横浜市港北区日吉2-12-7
- ・従事者人員 ショップマネージャー 3人 ボランティアスタッフ 34人(延べ 1,103人)
- ・受益対象者 市民 主に港北区北部・川崎市
- ・寄付件数 2,353 件
- ・支出額 6,610,694 円

2) 環境活動 両店でガラス陶器のリサイクルなどが一層進みました。

3) リメイク活動

3つのリメイクチームが、販売できなかった寄付品等を利用してリメイク活動を行いました。

## II. アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業（民際協力事業）

収益からの支援額については 運営委員会で支援検討会を開催し、決定しました。

総支出額 2,043,964 円

1) 海外支援 合計 1,417,495 円

(1) タナオココミュニティにおける子どもの人身売買・児童労働防止事業

・実施団体 認定 NPO 法人 国際子ども権利センター（シーライツ）

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアスバイリエン州コンボンロー郡タナオココミュニティに通う子どもの代表、各地域で組織された子どもクラブの子どもたち、教師、コミュニティ評議会メンバー、村長、警察

コンボンロー郡評議会メンバー、教育局職員、および地域の子どもたちとその親

・支援額 0 円（2016 年度支援金のプロジェクト、2017 年度収益金からは 0 円）

・プロジェクトの概要

ベトナム国境に近いタナオココミュニティにおいて、児童労働や人身売買の被害から子どもたちを守るべく、子どもたちとその親双方にこどもの権利と教育の重要性について啓蒙活動を行っています。2 年後にはこの活動を地域住民や団体が自主運営できるよう、地域教育機関や行政を巻き込んでの活動をすすめています。12 月に現地を訪問し視察・交流しました。国境沿いの経済特区に雇用が創出されベトナムへの子どもの出稼ぎや退学者は大幅に減っています。シーライツは現地での支援活動を昨年からカンボジアの NGO 法人に委託しており、この成否を見守るべく、2017 年度収益からの支援金支出は見送りました。

(2) タナオココミュニティにおける生計向上支援によるエンパワーメント事業

・実施団体 カンボジア NGO CAE (The Center for Actions towards Equality)

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアスバイリエン州コンボンロー郡タナオココミュニティ 432 世帯

・支援額 650,000 円

・プロジェクトの概要

農業組合の支援、農業技術指導、若い農家の人材育成支援、などを行なっています。全体的に事業は順調に成果をあげており、住民の事業参加数も増加し続けています。12 月に現地を訪問し、視察・交流しました。これにより、CAE の経済的窮状を目の当たりにし、プロジェクトの健全な進捗を担保できる支援額としました。

(3) ゆたかで幸福なコミュニティ-S3 の構築：ミニ・プロジェクト

・実施団体 ポンロック・バイトーン（緑の芽）有機農園学校

Ponlok Baitong (Green Shoot) organic farm school

・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジア プレイヴェン州、タケオ州、コンボンスプー州、カンポット州、の地域生産者約 100 名

- ・支援額 150,000 円

- ・プロジェクトの概要

農場経営力が未熟で市場競争力を十分に持たない農業生産者に、需要に合わせた効率の良い農業生産を指導して生活向上に繋げられるよう支援しています。有機農法や生ゴミリサイクルの指導、地域市場と消費者をつなぐコーディネート、セミナー開催や若者グループのネットワーク設立支援を行います。

(4) コーヒーの森づくり-アグロフォレストリー栽培による災害に強いコミュニティづくり

- ・実施団体 フィリピン NGO コーディリエラ・グリーン・ネットワーク(CGN)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

フィリピンコーディリエラ山岳地方ベンゲット州トゥブライ郡アンバサダー村コロス集落、  
およびタビヨ集落 (45 世帯)

- ・支援額 250,000 円

- ・プロジェクトの概要

台風被害により森林が失われた地域に現金収入となる作物を混栽することで、森林再生・防災・持続可能な生活向上のための支援を行なっています。コロス集落はコーヒーの収穫が始まり具体的な成果がみられます。さらに住民の一人はフィリピン国内の有機認証を受けるなどトゥブライ郡のコーヒー生産モデルになっています。

(5) チョコ募金キャンペーンを通じたイラク・シリア・福島支援

- ・実施団体 NPO 法人日本イラク医療支援ネットワーク(JIM- NET)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

イラクにおける小児がんの子どもたち、シリア難民妊産婦、内戦負傷者、イラク国内避難民、福島の子  
どもたち

- ・支援額 367,495 円 (チョコ募金 332,500 円、店頭募金 34,995 円)

- ・プロジェクトの概要

イラクの小児がんの子どもたちへの医療支援、イラクに逃れてきたシリア難民、妊産婦、子ども、内戦負傷者への義足の支援活動、イラク難民キャンプでの支援活動、福島の子どもたちを放射能から守る活動を行っています。

- ・プロジェクトの内容を広く知らせるため、今年度も「イラク支援報告会」を開催しました。

2) 国内支援 合計 626,469 円

(1) 横浜山北リフレッシュプログラム

- ・実施団体 福島子ども・こらっせ神奈川

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 檜葉町・いわき周辺及び県外避難者の子どもたち

- ・支援額 90,658 円 (収益より 70,571 円、店頭募金 20,087 円)

- ・プロジェクトの概要

福島に暮らす子どもたちが放射能を気にすることなく野外で存分に活動できる機会を提供しています。

2017年8月7日～9日に檜葉町・いわき周辺の子どもたち及び神奈川県在住の避難者小・中学生を神奈川県に招きました。

## (2) 生活困窮者自立支援

- ・実施団体 寿支援者交流会 1 越冬闘争委員会、2 寿炊き出しの会
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 寿町地域並びに近隣居住者・横浜市内の野宿生活者
- ・支援額 1、越冬闘争委員会へ 20,000 円 2、寿炊き出しの会へ 60,000 円
- ・プロジェクトの概要  
寿町地域並びに近隣居住者、野宿生活者等を対象に、炊き出し・バザー開催、訪問活動、医療・法律・生活・労働の相談活動を行っています。行政の窓口の閉まる年末年始には特に総力を挙げて支援を行っています。こうほくからは、支援金のほか、年間を通して衣類の寄付も行い、バザーや炊き出し越冬支援、寿わーく、など諸行事にも参加しました。

## (3) 放射能測定室併設検診センター開設支援

- ・実施団体 認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 いわき市及び原発事故被災地住民
- ・支援金 235,991 円 (収益より 170,000 円、店頭募金 65,991 円)
- ・プロジェクトの概要  
福島第一原子力発電所の事故による被ばくの被害から子どもたちと地域の人々の健康と暮らしを守るため、見えない・におわない・感じない放射能による環境汚染と長期的に向き合い、これから先の遠い未来を見据えた活動 (放射能の測定・クリニック運営・甲状腺の検診・たらちね子どもドック・保養活動) を行っています。10 月に視察見学しました。

## (4) 子どもの生活支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 家庭内に居場所を持ってない神奈川県の子どもたち
- ・支援金 209,820 円 (収益より 201,999 円、店頭募金 7,821 円)
- ・プロジェクトの概要  
虐待などの理由によって家族と共に暮らすことのできない 18 歳～20 歳の子どもたちを対象に、居場所を提供しての生活支援 (シェルター運営) や、法的支援、自立支援 (自立援助ホームみずきの家の運営)、電話相談を行っています。子どもは 18 歳を過ぎると、児童福祉法では守られず、児童養護施設に入所できません。「子どもの貧困」が注目される中、子どもが貧困に陥ることのないよう、子ども自身の自立を支援する活動です。

## (5) 3. 10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ 支援

- ・実施団体 3. 10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ実行委員会
- ・支援金 10,000 円
- ・プロジェクトの概要  
神奈川に避難してきた人々と、東北につながろうとする神奈川の人々とともに開く追悼の場の開催への支援金を出し、参加しました。

## 3) キャンペーン

- (1) 貧困なくそうキャンペーン 世界食糧デー・貧困撲滅デーに合わせ、10 月 2 日～21 日に実施しました。

(2) 「3. 11を忘れない」キャンペーン

3. 11を風化させないため、5月・7月・9月・11月・1月・3月のそれぞれ11日前後にキャンペーンを行いました。

(3) チョコ募金キャンペーン 12月9日～2月10日

12月8日(金)「イラク支援報告会」を港北区社会福祉協議会多目的研修室にて開催しました。

4) フェアトレード品の販売による支援 (金額は仕入れ額)

・ジンジャーティー      フィリピンゲットシュウ州バパス・ダイコン・ラパダ      79,800円

5) 支援現地訪問

(1) 福島浜通りツアー 浪江町・いわき市見学・訪問      10月15～16日      参加10名

2017年4月に避難指示が解除された浪江町を訪問する福島浜通りツアーを横浜北6地域で実施し、こうほくからは10人が参加しました。まだほとんどの人が県内外で避難生活をしている浪江町内や希望の牧場を見学し、翌日はいわき市で復興活動をしている3団体(いわきオリーブプロジェクトのオリーブ畑・認定NPO法人いわき市民放射能測定室たらちねのクリニック・ザ・ピープルのオーガニックコットン畑)を見学、原発事故の悲惨さとこれからの道のりの長さを実感しました。報告会でオリーブ基金への参加を決定しました。

(2) カンボジア・タナオコミュン訪問      12月14日～19日      参加7名

よこはま夢ファンド組織基盤強化助成金をうけて1地域NPO単独でのカンボジアツアーを実施しました。ボランティア4名を含む7名がシーライツおよびCAEの事業地を初訪問。2団体の活動を視察・見学し、コミュンの人々と交流し、たくさんの成果を報告することができました。

(3) 寿わーく      2月9日～10日      参加1名

寿地区センター主催。寿町の支援活動団体のいくつかの活動(炊き出し・夜回り・バザー・諸施設等訪問等)を体験し学習するフィールドワークに参加して交流し、地域への理解を深めました。

III. この法人の事業の広報普及を図る事業

1) 会報等、紙媒体による広報

6月(121号)と11月(122号)に会報を発行し、同時にホームページにも掲載しました。

活動内容をより詳しく伝えるため、ボランティアスタッフ向けに製作した既刊のスタッフニュースを会員にも9月と3月に発送配信しました。

2) ホームページの運営

ホームページを利用し、大倉山店・日吉店の企画案内や、報告会開催の告知等を随時行いました。

3) フェイスブックの運営

2017年7月にFacebookを立ち上げ、企画案内や活動報告の機会を増やしました。

上記1) 2) および3) への支出額合計 129,584円

#### IV. 組織活動

##### 1) 組織運営

リユースリサイクル運営・民際事業・広報事業、すべての事業で参加型運営を進め、総合力を高めることができました。

(1) 会員 期首 57 名 期末 53 名 (入会 2 名、退会 6 名) 目標 60 人

(2) 運営委員会 毎月開催し、全員が役割を担い運営しました。代わりあえる組織づくりを構築しました。

(3) ショップ運営

ショップ体制 ショップマネージャー 大倉山店 2→3 人体制 日吉店 3→2 人体制

ボランティアスタッフ大倉山店 28 人 (新規 5 人)、日吉店 34 人 (新規 7 人) 計 62 人

(4) 事務局体制

事務局長 1 名 (マネージャー兼任) マネージャー各店 3 名

新事務局体制での初年度でした。事務局会議を 3 回 (6 月 11 月 3 月) 開催し、運営委員会との役割分担・課題を整理・共有しました。

##### 2) 地域との交流

地域のイベントに参加し、地域との交流を深め活動をアピールしました。

- ・らくらく市 (らくらく市実行委員会主催) 5 月 21 日(日) 菊名地区センター前庭
- ・大倉山はんなりプロジェクト協同大倉山店着物市 4 月 20 日(木)~22 日(土) 大倉山おへそ
- ・「大倉山みんなの食堂」 食材寄付窓口として協力
- ・ふかふか上映会 参加協力 3 月 5 日(月)~9 日(金) 港北公会堂ホール
- ・チョコ募金を地域団体に呼びかけ、10 団体の協力を得る
- ・小さなまちの小さな平和展 (同実行委員会主催) 3 月 5 日(月)~9 日(金) ギャラリーかおれん
- ・錦が丘桜祭りに出店 3 月 25 日(日) 錦が丘町内会

##### 3) その他

- ・認定 NPO 法人として、より高い公益性を追求し、情報公開・適正な運営に努めました。
- ・横浜市が管理運営する市民活動推進基金「よこはま夢ファンド」登録申請し、組織基盤強化を目的とする助成金申請を行い、30 万円の助成を受け、カンボジアツアーを実施しました。
- ・WE21 ジャパングループのメンバーとして連携して活動し、グループ会議のほか講座・研修に参加しました。横浜北エリア 6 地域の NPO と連携し、10 月 15・16 日に福島浜通りツアーを実施しました。
- ・ワーカーズコレクティブ協会から紹介の「就労準備実習生」を 2017 年 2 月から 7 月の 2 期に亘り 1 名受け入れました。